

南半球便り（その 101）：オール・ジャパンの力

2 月 21 日

先週は大仕事がありました。天皇誕生日レセプションを 2 月 14 日に大使公邸で開催したからです。もちろん、大使館にとっては一年で最重要の行事ですが、日本国にとっても「ナショナル・デイ」。私にとってはキャンベラ赴任後、三回目。今まで培った経験と人脈を総動員し、オール・ジャパンの総力を結集しました。今回は、そのご報告です。

1. 歴代最高レベルの招客

キャンベラの日本大使公邸を訪れる多くの方から受ける指摘があります。それは、「近隣の諸外国大使公邸に比べて日本大使公邸の建物自体は控え目だけれど、最大の強みは広い日本庭園があることですね。」というものです。

しかも、芝生の庭に加えて、池、石庭、東屋を備えた回遊式。このスペースを最大限活用しつつ、できるかぎり多くの人を招待しようと企画しました。南半球の 2 月は、屋外パーティーに相応しい時期でもあるからです。



好天にも恵まれ、多くのゲストが詰めかけたレセプションの様子

豪州の政・財・官・学・マスコミはもちろんのこと、在留邦人の方々は夫妻で、さらには、日本と縁の深い第三国の大使・武官他にお声がけしました。その結果、600名以上の方々が出席、昨年の400名を大幅に上回ることであります。

キャンベラだけでなく、シドニー、メルボルン、ブリスベン、ゴールドコースト、パースなど豪州各地からお越しいただき、誠に心強く感じました。

2. 並み居るVIP

式典での主賓としてのスピーチは、アルバニージー政権の副首相兼国防大臣であるリチャード・マールズ氏とドン・ファレル貿易大臣に依頼しました。両大臣とも、昨年5月の就任以来、訪日だけでなく、公邸での会食のために来訪された経緯があります。私からスピーチをお願いしたのに対し、早速快諾が得られました。



スピーチをするマールズ副首相兼国防大臣（上）、ファレル貿易大臣（下）

乾杯の音頭は、通常は、豪州外務貿易省儀典長と主催国大使の二人が行うのが習わし。しかるに、今回は、外交当局だけに尽きない日豪関係を体現すべく、豪州側からは豪日議連会長のカトリーナ・ビリック上院議員（労働党、タスマニア州）、日本側からは松永義明・茶道裏千家淡交会シドニー協会会長の鳳声をいただきました。



乾杯の音頭を取るビリック議員（左）、松永会長（右）

日頃から懇親を深めてきたトニー・アボット、スコット・モリソンという二人の首相経験者の出席が得られたのは、非常に名誉なことでした。加えて、ピーター・ダットン野党リーダー、トニー・スミス、アンドリュー・ウォレスの二人の下院議長経験者、サイモン・バーミンガム影の外相（元貿易大臣）をはじめ錚々たる顔ぶれが揃いました。



トニー・アボット元首相と



スコット・モリソン前首相、
作野 doq 社代表と



ピーター・ダットン野党リーダーと

出席していた何人もの豪州人から、「与野党双方にまたがって要人が出席したことに大使館のネットワーキング努力を感じた。」との高い評価を得ました。政治的立場の相違を越えて日豪関係の重要性が認識されていることの証左とも言えるでしょう。

豪州の情報機関や国防軍の幹部がほぼ勢揃いしてくれたことも、嬉しい限りです。情報分野や安全保障分野での近年の日豪協力の幾何級数的な進展がうかがわれます。

3. 日本企業の底力

これだけの豪州要人が集まる機会となったのです。折角のチャンスを生かすべく、自動車、アパレル、製造業、エネルギー、交通、観光等、様々な分野の日本企業・団体計 30 社の協賛を得て、自社製品やビデオ、パンフレットの展示を行いました。

ユニクロ、キッコーマン、ヤクルト、サントリー、伊藤園、JR 東海等からのお土産は、大きな賑わいを集めました。ユニクロは、コンテナ式の大きな展示施設を披露しただけでなく、招客全員にダウン・ジャケットのお土産を提供。冬の寒さが厳しいキャンベラでの開店を待ちわびている人たちから歓声が上がっていました。

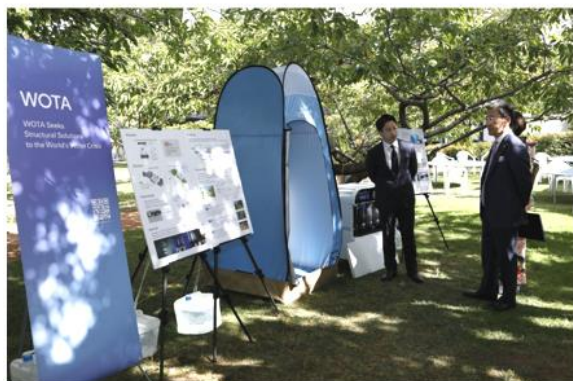
また、WOTA 社は、斬新な浄水施設を日本からはるばる持ち込んでデモンストレーション。水不足に悩まされがちな豪州の実情にマッチした企画として、強い関心と呼んでいました。

さらに、ヤマハは、自社のヘリコプター型ドローンによるデモ飛行を二回にわたり実施。豪州の農作業等に欠かせない散水までしたのは、何ともリアルでした。列席の軍・情報機関関係者に対しては、私のスピーチで「決して打ち落とさないでください。」と注意喚起しておいたためか、ドローンが撃墜されることはなく（笑）、完璧なまでにランディング・ポイントに着陸しました。

【私のスピーチは、[こちら](#)をご覧ください。】



圧巻のユニクロ展示コンテナ。多くのゲストの目を引いていました



WOTA 社の浄水デモンストレーション（左 2 枚）、ヤマハのドローン（右 2 枚）。

日本の先進技術を紹介する格好の機会となりました

4. 文化の力

今回のテーマは日豪のコラボ。

そこで、文化行事では、旧知のゲスナー多恵さんをお願いし、2021 年のシドニーでの「ジャパナルー」（日本祭り）や昨年当館主催「春のレセプション」で大好評を博した WABORI の着物ショーを公邸で実演していただきました。アボリジナル・アートを生かした着物をまとったパフォーマーが繰り広げる幽玄の世界。熱心に見入っていた観客の驚きと感動が伝わってきました。

また、豪州人愛好家による合気道のきびきびとした実演、豪海軍軍楽隊による日豪両国歌の斉唱やレセプション中の歌唱・伴奏も、レセプションに活気と華やぎを与えてくれました。



日豪伝統文化をコラボさせた着物ショー「WABORI」（上 2 枚）

合気道道場「Aikilife Dojo」による迫力のパフォーマンス（下段左）

美声を披露してくれた豪海軍軍楽隊の 2 名（下段右）

5. 和食の力

むろん、このようなレセプションで欠かせないのは、食事とお酒。日本大使館の最大のセールス・ポイントでもあります。

数日前から小形公邸料理人と公邸スタッフらが週末返上で準備に当たり、招客が日本食を堪能できるよう万全の努力をしました。例えば、寿司は600食、餃子は1800個。何人かの大使館員夫人が私の家内と共に餃子を丹念にこしらえる姿を見ながら、このレセプションは是が非でも成功させなければならないと心に誓っていました。



食事を楽しむゲストの様子。
ファレル大臣にも味わっていただきました（右）

そんな中で強力な援軍が、遙か遠方から駆けつけてくれました。西豪州のパース近郊のヤンチェップでファーム（放牧場）を営む東急が、寛大にも大量の牛肉を寄付してくれたのです。渋谷のセルリアンタワー東急ホテル出身の小形料理人が腕を振るってローストビーフを調理。多くの招客が舌鼓を打っていたのが印象に残りました。



ローストビーフを調理する小形料理人。
カットするや否やなくなる盛況ぶりでした

また、例年大人気の MATCHAMATCHA の抹茶ソフトクリームは飛ぶようになりました。豪州でも根強い人気を誇る麒麟やアサヒのビール、そして東北その他の日本酒が多くの人を集めていたことは、言うまでもありません。



大人気の MATCHAMATCHA の抹茶ソフトクリーム（左）、
夏らしい演出とともに振る舞われた日本酒の数々（右）

6. 広報

天皇誕生日レセプションに従事した関係者一人一人のこうした献身と尽力が伝わったのでしょうか？レセプションに先立って、評論家のポール・モンク氏が好意的な記事をオーストラリアン紙に書いてくれました。かつてなかった展開です。

【記事は[こちら](#)でご覧いただけます。】

また、当日シドニーから豪州人の奥様と駆けつけてくれた TBS の飯島氏は、レセプションの様様を細大漏らさず捉えた報道をしてくれました。

【TBS の報道は、[こちら](#)でご覧いただけます。】

7. さらなる高みへ

以上のとおり、広がりや深みを増しつつある日豪関係を象徴する天皇誕生日レセプションとなりました。

在任2年を超えた私にとっては、おそらく豪州の大勢の友人・知人の前で挨拶ができる最後の機会となる見込みです。そこで、スピーチの最中には、ジョークをふんだんに交えるとともに、当初は読み上げるはずだったフランク・シナトラの「マイウェイ」のさびの部分（Regrets, I had a few, but then again, too few to mention.）をアカペラで歌唱。ファレル大臣からは、「第二の人生では、歌手は目指さない方がよい。」と諭される始末でした（笑）。



並み居るVIPを前にスピーチ。大使としての重要な責務です

それはともかく、今回のレセプションでは、民と官との垣根を越えてオール・ジャパンで力を合わせたお陰で、日豪関係をさらなる高みに引き上げる格好の弾みがつきました。時の経つのも忘れて真夜中過ぎまで招客の方々と日本のウィスキーグラスを傾けながら、達成感に包まれることができました。

山上信吾